グループホーム　しおさい
（別紙4）　　平成　26　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271101554		
法人名	社会福祉法人　清潮会		
事業所名	グループホーム　しおさい		
所在地	長崎県西海市崎戸町蛎浦郷17番26号		
自己評価作成日	平成26年9月22日	評価結果市町村受理日	平成27年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成26年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

静かで海の見える場所にあり、景色や環境は懐かしさがある。オープンキッチンとなっている台所からは、食欲を誘う良い匂いがいつも漂っている。それに誘われるかのように、リビングには自然とご利用者が集まり、職員との会話も弾んでいる。2年程前より笑いヨガを取り入れており、毎日笑顔が絶えず、家庭的な雰囲気の中で、明るく楽しくゆっくりをモットーに、一人一人の出来る事をして頂きながら、ご利用者の方々・職員がお互いに助け合い、又、ご家族の協力も得ながら、その人らしい生活を営める様、サービス提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は捕鯨と炭鉱で栄えた島の閑静な住宅地に位置している。職員は利用者が「今、何に困っているか」「何を必要としているか」を考え乍ら日々支援している。食事の際にエプロンを着用せず、本人の尊厳を守る支援や利用者一人ひとりの生活リズムを大切に、動きを妨げない支援など先輩から新人へ申し送られ、利用者の人間性を尊重する姿勢が職員に浸透している。母体法人には各種委員会活動があり、中でも身体拘束の研修は年に2回行っており、全職員が参加出来るよう同じ内容の研修を3回開催するなど職員を育成する仕組みは特長である。地域密着型の事業所として、地域の結びつきを目標に掲げ、地域に溶け込み、繋げるよう日々努めている。職員と利用者が食卓を一緒に囲む食事や、利用者の誕生日に家族を招くなど利用者本位の支援が様々に確認できる事業所である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念の他、地域密着サービスとしての理念は、共有している。 事業所独自の職員理念を挙げており、全職員で共有・実践に繋げている。	法人理念「人間性の尊重」を基本に、事業所の理念、年度の目標、職員の理念を掲げている。職員は「人間性の尊重」に基づき、利用者の気持ちを優先した支援に努めており、新人職員にも説明している。また、家族や地域の人に介護知識を伝え、互いの信頼関係を構築している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員全員が、積極的に挨拶に努めている。地域の行事には利用者と共に参加し、交流に努めている。	地域の人が見学に訪れ、顔なじみの利用者と会話が弾むことがある。神社や婦人会、自治会長から情報を得て、祭りや花火大会、演劇鑑賞など利用者も一緒に出掛けている。今年度、事業所の目標を「地域との挨拶」としており、職員は今まで以上に出退勤時に近所と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時等、職員が行っている認知症の方への支援内容等伝え、出来る限り地域に役立つ事が出来る様に、努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自施設の行事報告、職員の研修受講報告や、事故の報告をさせて頂いている。参加者の方からは、他の施設はこの様にしている等の意見を貰ったり、助言を頂き、それらを参考に質の向上に努めている。	年6回、規程メンバーで開催している。会議内容を詳細に記した議事録は誰にもわかりやすく会議の様子がわかる。消防訓練に分団長の紹介があったり、事業所の広報誌を市の窓口に置くことが実現するなど、メンバーの意見やアイデアが事業所の運営に活かされている事例が多くある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一度の運営推進会議には、市の方が必ず出席して頂けている。その場で直接情報の交換をしたり、他、疑問がある時には、電話でその都度伺ったりして、協力関係作りに努めている。	運営や利用者の手続きなど不明な点の相談や事業所の状況など連絡している。又、行政主催の研修に参加している。連絡は同じ職員に決め馴染みの関係や連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が設置されており、法人内の定期的な研修で理解出来ている。 他、体の拘束だけではなく、「心の拘束」にも意識が高まり、日頃から職員相互で拘束になっていないか、話し合っている。	法人の身体拘束廃止委員会が開催する年2回の法人内研修は全職員が参加している。更に、外部研修を受講し報告することで周知を図っている。職員は言葉掛けや口調に配慮し、気になる時は職員間で注意しあっている。日中の施錠は無く、動きを妨げない拘束のない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人で「身体拘束廃止委員会」が設けられている。その中にも虐待防止も含まれている。全職員で研修を受けており、虐待が見過ごされない様に日々注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、対象者となる方はおられないが、以前、生活保護を受給する事があり、その時に制度に関する資料を全職員で見て、共通理解に努めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する際、ご家族に重要事項説明を十分に行うと共に、玄関にも掲示している。疑問や不安等ある場合、直接説明したり電話でもお話をして、理解して頂けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の方とは、日頃の何気ない会話等でお気持ちを伺い、又、表情・口調・行動等でもお気持ちを知る様、努めている。それは、ご家族の方でも同様であり、気兼ねなく話せる雰囲気作りに努めている。	苦情相談窓口は文書に明記し、利用開始時に家族へ説明している。利用者の誕生会に家族を招待したり、面会時には家族が話しやすい雰囲気作りを心がけており、本音を話せる関係作りに努めている。家族の要望で、ポータブルトイレの匂い消しを取り入れた事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で、職員一人一人の思いを知る様努め、職員会議の時にも意見や提案を聞いて、働きやすい職場作りに努めている。	毎月の職員会議で職員の意見を聞き取っている。法人では人事考課を導入しており、職員は個人目標を立てている。相談など職員は直接施設長に話しており、施設長は資格取得に向けて参考となる書籍やDVDなどを貸与している。これまでに職員の要望を踏まえ、冷蔵庫や洗濯機、シュレッダーなど新調している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、職員個々の努力や目標・実績を把握して、やりがい等、各自が向上心を持って働ける環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、極力受講する様に配慮している。職員それぞれの段階に応じて、研修を受講している。法人内では、各委員会が主催する研修会があり、開催日を分け職員が参加し、共有出来る工夫をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回の運営推進会議の時、同業者であるご家族代表の方と交流したり、社協が開催する研修会に参加し、サービスの質を上げる取り組みをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃から、ご利用者の方と接する機会を多くして、何気ない会話の中から、困っている事・不安な事を探り、又、話しやすい雰囲気作りを行い、良い信頼関係が生まれる様に、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃より、何でも話せる雰囲気作りを心掛けている。又、何気ない会話の中から、ご家族の本当の思いの把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の本当の思いを知った上で、十分な話し合いを行い、今一番必要な事を全スタッフで見極めていける様、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全スタッフが、させて頂いているという思いを常に持ち、ご利用者の方に接する事で、気兼ねなく毎日を過ごして頂ける様努めながら、暮らしを共にする同士の良い関係作りを務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や他電話等で、ご本人のご様子をお伝えしていき、思いを共有出来る様、努めている。 行事ごとに、ご家族に参加をお誘いしたり、いつでも気軽に、ご本人に会いに来られる様な、雰囲気作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の知人の方も、よく面会に来て下さっている。ドライブの時は、馴染みの場所にお連れする事で、偶然にご近所だった方ともお会いして、お話もされており、馴染みの人や場所との関係が途切れない様、努めている。	職員は利用者の生活歴を把握しており、自宅近くにドライブし地元の人と歓談したり、病院の送迎時に自宅周辺を散歩できるよう支援している。また、近所の人や同級生などの訪問があったり、敬老会に招かれるなど馴染みの人や場所との関係が継続している。墓参りや友人のお見舞いなども職員が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同郷の方が2組おられる。話し合ったりされ、お互いに支え合い過ごされている。 又、職員が間に入り、共通の話題となる様な事柄を提供し、ご利用者同士の関係を支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、亡くなった事の連絡を下さる等、関係は続いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の面会の折、今までの生活歴や、介護に対する要望を伺っている。 ご本人から言葉での要望が難しい方は、日頃の会話の中や表情・行動等で汲み取り、常にご本人の思いの把握に努めている。	職員は利用者の日頃の会話について、漫然と会話するのではなく、利用者の思いを知ろうと考えて臨んでいる。ドライブなどの希望は日程を決めて実行しており、自宅が気になる利用者と一緒に帰宅して自宅の様子を確認している。行動や表情等から何を必要としているのかを考え職員間で検討し察知している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、ご家族や関係機関と話をし、これまでの暮らしを把握し、ケース会議の中で情報の共有を図り、日々の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から様子観察を行い、新しい出来事があると記録に残し、申し送り・カンファレンス等で、現状の把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の状況について、職員間で話し合いを行っている。ご本人やご家族の思いについては希望を伺い、サービスについては職員間で話を行っている。主治医に日常生活について報告を行い、必要な助言を頂き、介護計画に取り入れている。	1ヶ月毎に介護職を含めカンファレンスを行い、3ヶ月毎にモニタリングし、見直しを行っている。又、退院後や状態の変化がある時はその都度見直している。面会時や電話で家族の意向を聴取し、主治医や職員の意見を取り入れて作成している。ただし、支援記録への記載が解り難い。	利用者への支援の質を更に高めるために、職員が介護計画の重要性を理解し、介護計画書に沿った支援とその記録の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践・結果・気付き等、個人記録に記入し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かす様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況、新しいニーズに対し、ご家族の意向をお聞きし、ご本人の希望が叶う様に、柔軟なサービスを行う様、努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	何か疑問点がある時には、市に尋ねている。地域の方には常に挨拶を行い、施設の存在を知ってもらい、何かの時には協力を頂ける様に、お願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望される先生が、掛りつけ医になっている。ご本人にとって、良い関係作りに努めている。病気の内容によっては、医師・ご家族・職員を交え、今後の話を行い、適切な医療を受けられる様に、努めている。	家族と本人の意向に沿って主治医を決めている。利用者の定期受診時や家族支援の時は、日常の様子を文書化して主治医に状況を知らせている。受診結果は家族と連絡を取り合い、記録に残し職員間で共有している。協力医の往診もある。又、緊急時の対応を職員は周知し、利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理は、主治医に相談している。生活の様子や気付きを伝え、必要なアドバイスを受けた時は、職員間で共有し、適切な受診や看護を受けられる様、努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に関しては、ご本人・ご家族・主治医を交えた話し合いを行い、安心して治療出来る環境作りに努めている。 入院中は、病院関係者と情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合を考え、早い段階から、ご本人・ご家族・主治医と何度も話し合い、全員で方針を共有し、連携を取りながらチームとしての支援に努めている。	事業所は夜間帯の体制や家族の医療機関への移行の希望などを勘案して、看取りに取り組んでいない。家族へは利用開始時に事業所で出来る支援を口頭で説明している。ただし、文書としての指針は無く、家族の同意も署名として取っていない。	事業所の現状を踏まえた指針の作成と家族への説明、同意書への署名を整える事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内において、ご利用者の急変や、事故発生時についての研修が実施されている。講義と実践にて、全職員研修を受け、身に付いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月第2水曜日に、避難訓練を行っている。発生場所・時間を変えて行い、利用者様が避難出来る方法を、全職員で身に付けている。 万が一の時は、近隣の方々への協力をお願いしている。	防災訓練を年2回、自主訓練として日中想定の避難訓練を毎月行っている。また、消防団分団長に協力を依頼し、次回から参加を予定している。備蓄として缶詰やビスケットなどを準備している。自然災害については避難場所までの移動訓練をまだ行っておらず、非常持ち出し品は未整備である。	自然災害を想定し、避難場所までの移動訓練や非常持ち出し品を整備するなど、更なる取組みに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束委員会で作成された禁句集に従い、人権とプライバシーを損なわない声掛けに努めている。 特に排泄の声掛け時、周りにに気付かれない配慮を行っている。	職員は利用者に対して目上の人に教えてもらう姿勢で接している。トイレ誘導はさりげなく支援し、失敗した時には共感し気に病むことがないよう配慮している。トイレのパッド類、ポータブルトイレは目に付かないよう工夫し、利用者の尊厳を重視している。ただし、写真掲載の同意についてはこれからである。	利用者の写真については個人情報であるため、本人・家族に写真の利用に関する同意を得ることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつの時でも声掛け行い、必ずご本人へ説明し、希望を伺っている。 あるいは、仕草や表情から思いを汲み取り、自己決定に基づいた生活の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビがお好きな方は、仲の良いご利用者同士で、テレビも見ながらお話をして過ごされている。散歩するのがお好きな方は、所内を歩かれたり、手先を動かすのがお好きな方は、色塗りをしたり、箱を折って過ごしている。お一人お一人がそれぞれのスタイルで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類・小物に関しては、入所時にそのまま持ち込まれて、ご本人の好みの物、着慣れた物を着用されている。随時その日着用の服は、ご本人に一緒に選んで頂いている。 ご家族からも、イベントごとにご本人の好まれる衣類等の贈り物がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	今日は何を食べたいか尋ねたり、下準備や味見・下膳等、出来る事は職員と一緒にして頂いている。職員も同じテーブルで食事を摂り、一人一人の状態を把握し、会話しながら楽しく食事が摂れる様、対応している。	季節の食材を使い、おにぎりや炊き込みご飯など家庭的な献立を提供している。利用者の誕生日には本人の希望を聞き、刺し身やロールケーキを準備し、家族を招いて一緒にお祝いしている。弁当を持参してのドライブや家族との外食など食事が楽しみとなるよう工夫して支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事ごとに、個人記録に残し、把握出来ている。入浴後にも、水分補給を促している。自室に白湯を入れたペットボトルを置き、いつでも飲める様にしている。 あるいは、吸い物・お茶をあまり好まない方へ、果物やゼリー、好まれる飲み物を提供し、出来る限り水分を摂って頂ける様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後促している。自力で困難な方へ、介助にて清潔を保てている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しながら、その人に合った誘導・促しを行う様、努めている。尿意がない方も、その人のタイミングを計り誘導し、トイレでの排泄を心掛け支援している。	職員は排泄の自立支援を理解し、排泄チェック票は必要な利用者に留め、利用者のリズムに合わせて誘導支援している。日中は全利用者がトイレで排泄しており、夜間のポータブルトイレは使用の都度、掃除し快適な環境を整え、排泄の自立に繋がるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分補給や食物繊維の多いメニューを心掛けている。サツマイモ・ゴボウ・バナナ・ヨーグルト等、食事やおやつに取り入れている。 又、主治医と連携し、服薬の調整行う。便秘の原因や及ぼす影響についても、十分理解している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を希望される方には、毎日でも入って頂いている。入浴に断わりの言葉があった時には、声掛けや介助の職員を変えたり、時間帯を変えたり、足浴等工夫している。その方に合ったタイミングで、入浴して頂いている。 又、男性職員が対応出来ない女性のご利用者は、全て女性職員で対応する事で、満足を得ている。	毎日、入浴を準備し、週2、3回入浴を支援している。同性介助や毎日の入浴など利用者の希望に沿って支援しており、一人ずつの入浴は歌を歌ったり、1対1での会話が弾んでいる。また、菖蒲湯、柚子湯など季節の演出で入浴を楽しめるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマ着用については、それまでの生活習慣を尊重し、様々である。 夜間眠れなかったりする方は、昼間休息して頂ける様な状況をお作りしている。夜に眠れない方は、リビングでお茶を飲みながら職員とお話しする事で、安心される方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、いつでも見れる場所に保管し、変更の際は個人記録・カンファレンスノートで、確実に伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・接客・掃除・話し相手、様々な役割を持って頂いている。 外気浴やレクで体を動かす等して、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・散歩・買物等を取り入れている。行事を通じ、地域の方から声を掛けて頂き、他のご利用者やご家族と一緒に出掛けている。 又、ご家族の協力でご自宅に行ったり、普段は行けない所へ連れて行かれる場合もある。	職員は利用者と1対1での散歩や花見、鯉のぼり、花火大会の見物など季節のドライブに出掛けている。又、住んでいた在所に行ったり、買い物など利用者の希望に沿って支援している。更に、正月や盆の自宅外泊や墓参りなど家族の協力を得て、利用者の外出支援に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がご家族へお任せしていたり、金銭管理が困難であり、ご家族希望で所持していない方が殆どである。 ご利用者が買いたい物がある時は、その都度ご家族に相談し、立替金で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が自ら番号を押し、掛ける事は困難だが、いつでも電話出来る様にしている。ご利用者から申し出がなくても、時々こちらからご家族へ電話をし、ご本人と変わったりしている。 手紙を書きたい方へは、便箋と切手を用意し、いつでも出せる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは全体的に明るく、ご利用者・職員の会話も穏やかで、外からの騒音もなく、生活音が心地良い雰囲気である。季節の花を飾ったり、毎月壁面を換えたりしている。	オープンキッチンと繋がったリビングは、採光も十分で明るく、食事の準備の音や匂い、職員の会話や立ち動く姿が見え、生活感が漂っている。又、フローリングの壁には利用者の作品が飾られ、ソファには利用者が寛いでいる。職員が毎朝清掃し、清潔で落ち着ける空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や窓辺にはソファや椅子を置き、いつでもどこでも座れる様、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも協力して頂き、以前から使用している家具や置物を持ち込んで頂いている。ご自分で作った物を飾られている方や、テレビを設置している方等、様々である。自宅と同じ様な雰囲気になる様にしている。	広めの居室には、利用者の希望の位置にベッドが置かれ、馴染みの時計や箪笥、カレンダーや家族の写真、趣味の作品などが飾られている。又、面会者が寛げるように各居室に椅子が置かれている。毎朝、職員が掃除と空気の入れ替えを行い、居心地良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室・洗面所等に、利用者様の使い勝手を考慮した手すりの設置と、それぞれの場所を示す貼り紙をして、案内している。 ご利用者によっては、室内でも手すりの設置を考え、必要によっては設置する等、自立や安全に繋がる配慮を行っている。		